

**男女が共に学ぶ講座 認知症なんてこわくない！「介護予防」のひけつ**

- 講師：佐野 宏一朗さん  
(健康科学大学看護学部看護学科講師)
- 日時：10月21日(木) 10:00～11:30
- 会場：大研修室
- 対象：一般30名
- 参加無料(要事前申込)

高齢者がなるべく介護を必要とせずに自立した生活が送れるように認知症について正しい知識を学ぶ機会です。認知症とはどのような病気であるか、予防の方法はどうしたらよいか。また、栄養面や運動などから予防の方法を考えていきます！

**女性の活躍支援講座 エンパワーメント  
女性のおしゃべりルーム「米粉との出会い」**

- 講師：天野 洋子さん  
(有限会社エルフィン・インターナショナル)
- 日時：10月22日(金) 10:00～12:00
- 会場：調理実習室
- 対象：一般女性10名
- 材料費：500円(要事前申込)

■持ち物：エプロン、三角巾(バンダナ可)、持ち帰り用容器3つ(タッパーなど)、飲み物、筆記用具  
全国で数少ない主原料100%米粉、食物アレルギー対応、グルテン不使用の安心・安全な商品を開発・製造をされている天野洋子さんを招いて、ご自身のお話を聞きながら、お子さんから大人まで誰もが安心して笑顔で食べられる米粉パンケーキと米粉シチュー作りをしてみましょう！

**男性の家庭参画推進講座  
男性の料理教室「めんずキッチン」**

- 講師：守屋 若奈さん(野菜料理研究家)
- 日時：11月6日(土) 10:00～12:00
- 会場：調理実習室
- 対象：小学生以上の男性10名(親子参加可)
- 材料費：1,000円(要事前申込)

■持ち物：エプロン、お手ふきタオル、上履き、バンダナまたは三角巾、持ち帰り用容器、飲み物



■メニュー：キーマカレー、ポークピantal、アチャール、じゃがいものサブジ、ターメリックライス、ナン

ぴゅあ富士は、男性の家庭生活への参画を応援します！まずは美味しく健康維持にも役立つ簡単な料理から始めてみませんか？

**男女の健康セミナー「健康づくり教室」①②**

- 講師：山梨県厚生連健康管理センタースタッフ
- 日時：11月9日(火) ① 10:00～11:30  
② 13:30～15:00

■会場：団体連絡室  
■対象：10名(どなたでも)  
■参加無料(要事前申込)  
生活習慣病予防にいつまでも若々しく健康な体づくりを応援していきます。

- ①「食べる時間でカラダが変わる！時間栄養学を活用しよう」  
食べる時間や速度など、食生活を体内時計に合わせることで健康的な体を手に入れる方法を紹介します。
- ②「椅子を使って手軽に筋力アップ教室」  
忙しくて運動の時間が取れない人やコロナウィルスが怖くて外に出られないなど、なかなか運動が出来ない方、向けに簡単に効果大の筋トレを紹介していきます。一緒にライフステージに応じた心身の健康づくりをしていきましょう！

**女性の活躍支援講座 エンパワーメント  
女性のおしゃべりルーム「やまなし農業女子トーク」**

- 講師：やまなし農業女子(講師2名、進行役1名)
- 日時：11月13日(土) 13:30～15:00
- 会場：団体連絡室
- 対象：一般女性10名
- 参加無料(要事前申込)
- 持ち物：筆記用具

山梨で農業の魅力について社会に広く伝え、地域活性化を図るための情報発信やイベントの開催など多方面で活躍する女性就農者グループ「やまなし農業女子」のメンバーをお招きして楽しいトークを繰り広げていきます。農業という働き方を選んだきっかけ、農業の魅力や課題などを伺います。農業って興味あるけど大変そう・・・？どんな仕事をしているのかな？働き方の一つとして、農業についてみんなで考えてみましょう！



お申込みは、  
**TEL:0554-45-1666 FAX:0554-45-1663**  
[pure-fuji@yamanashi-bunka.or.jp](mailto:pure-fuji@yamanashi-bunka.or.jp)  
掲載事業には託児サービスがあります。(要事前予約)  
詳しくは、ぴゅあ富士までおたずねください。

令和8年  
5/28(日)

令和3年度 男女共同参画ネットワークセミナー基礎講座

**みんなが幸せになる、我が家の男女共同参画**

講師：石井クンツ昌子さん お茶の水女子大学 理事・副学長

石井クンツ昌子さんは、国際的な比較も取り入れながら、家族社会学やジェンダーについて研究されている先生です。このたびは、「男女共同参画ネットワークセミナー基礎講座」の講師として、なかなか進まない男性の家庭参画やコロナ禍における男女共同参画について、山梨県のデータも用いながらわかりやすくお話していただきました。

本来ならば石井先生をぴゅあ総合にお招きするところ、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言期間中だったため、やむなくオンラインでの開催となりました。

まず、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛やテレワークなどにより家庭で過ごす時間が増えたことで、日本の根強い男女の性別役割分業がより鮮明になった、ということをお話しになりました。男性も家事や育児をするものの、ある意識調査ではコロナ禍で保育園・幼稚園が休園中に女性の8割が「子どもの面倒をみたのは自分」と回答したそうです。ちょうど、ぴゅあ総合では「カジダン・イクメン写真展」が開催されていて、家事や育児に積極的な男性の姿を見ることができましたが、まだまだ女性にかかる負担は大きいことを改めて思いました。

しかし、男性も一家の大黒柱、稼ぎ頭として期待され、さらに育児や家事も、というたいへんなことだと思います。「育児を楽しめる格好いい男性や上司」=イクメン、イクボスという言葉はあるものの、依然として低い父親の育児休業取得率を見ると「父親の育児文化は定着しつつあるが、行動が伴っていない場合が多い。」という先生の言葉が印象的でした。

山梨県も「山梨県第4次男女共同参画計画」に「男女共同参画による家庭づくり」「男性の育児参画の促進」の目標がありますが、令和元年度の年次報告書によると、県内企業の男性の育児休業取得率は平成30年のデータで4.7%、男性の休日における家事・育児に費やす時間は平成27年のデータで2時間34分、いずれも目標とする数値には届いていませんでした。ここからも男女の意識と実際の行動にギャップがあることを感じました。

男性が家事や育児に参画することで、子どもの社交性・情緒的発達が促進されたり、妻の育児不安やストレスの軽減、復職の機会ができることはもちろんですが、父親自身にとっても仕事におけるタイムマネジメントが上手になって生産性が向上したり、思いやりが深まるなど人間関係が良好になったり、自分自身の成長認識を感じたりすることができ、育児そのものもキャリアと思えるなど、良い影響もたくさんあるそうです。

しかし、なぜそれが進まないのかということについては、問題がたくさんあるようです。夫婦の収入や労働時間、「夫は仕事、妻は家事」という性別役割分業の意識はよく言われ



ているかもしれませんが、「妻が『ここ(例えば台所)は私のテリトリー』という意識を持っていないでしょうか？女性の方から男性に家事や育児への協力を働きかけることも大事です。」という先生の言葉にはハッとしました。どうしても男性の意識が低いと思ってしまいがちでしたが、女性も積極的に「意識改革」をしていかなければならないなと思いました。若い世代の人たちには、女も男も関係なく、できることをできる人ができるだけやるような、お互いに協力し合って暮らしていける世の中にしてほしいものです。

石井先生も、子どもの生育環境を「ジェンダーニュートラル」にすることが家庭内では必要であるということをおっしゃいました。そのためには男性の家庭での役割を視野に入れた働き方を企業も考えていかなければなりません。また、地方自治体や地域のコミュニティでは育児をする父親への支援や父親どうしのネットワークづくりが求められ、メディアにはジェンダーバイアスを除去していく必要があるとのこと。さらに個人、事業者、行政それぞれが連携、協力し一体となって男女共同参画の実現を目指すことが必要だとおっしゃられました。

言われてみれば確かにそうだ！そんなことは言われなくてもわかっているよ！とも思いましたが、そんな「当たり前のこと」でも私たち一人一人がこのような機会をとおして常に意識を新たに、少しずつ行動していくことが大切なのだと、いうことを改めて考えさせられました。

今回は、長引くコロナ禍の下でも中止や延期ではなく感染防止対策を整えてオンライン形式で開催することができました。「リアル」のお話の説得力にはかなわないかもしれませんが、講座の開催方法の一つとして、これからもオンラインを活用していただきたいと思えます。

(ぴゅあ総合 企画サポーター)